

週日の説教

金 大烈 神父 2009年9月9日(水)

《神様の望みは、私達が皆、富に囲まれて豊に生きることです》

おはようございます。

今日の福音(ルカ6・20-26)はある方は間違えて理解し、またある方は正しく理解出来ていないと思います。2000年のカトリックの歴史の中で、色々な解釈が出来た、解説が出来た、理解が出来た事です。反対面で見られた事もあるし、お互いにこの解釈は悪いと言う人もいましたし、色々複雑な過程を通して、今も霊性神学者達によって違う意見が出るところです。私も自分が今まで感じている自分の心にあるものを皆さんに紹介したいのです。

『貧しい人は幸いである。』ルカの福音は山から下りて、平地からイエス様が述べ伝えた事として書かれています。同じ内容なのですが、マタイの福音・5章1節では、山で福音を述べ伝える姿が現されています。ルカとマタイは違う時代に生きていますし、聞いた事を書いているので、平地か山かはそんなに大事な事ではないと思います。しかし、マタイ5章1節では『心の貧しい人は幸いである。』と“心”を入れたのです。ルカが“心”を取り除いたのか、マタイが後から“心”を付け加えたのか、神学的にははっきり解からないのです。

さあ、原論的な質問を差し上げます。イエス様は私達が皆、貧しくなる事を望んでいらっしゃるのでしょうか。アシジの聖フランシスコは貧しさを実践した生き方を見せて下さいました。そのフランシスコ聖人が貧しい姿を保った理由は、「全ての人々が私のように貧しさで感謝した生き方をして下さい」といった意味でしょうか。どう思われます？ はっきり申し上げます。神様は皆様が富みの中で、豊かに生きる事を望んでいらっしゃると思います。貧しい事は祝福ではありません。神様はこの世の中、十分に富みの中で、全ての人々が生きることが出来るように作って下さいました。ただ問題は人間の欲によって、利己的な心によって、分かち合う事が出来ないから格差が生じるのです。

神様の御旨とは、全ての人々が豊かさを感じながら幸せに生きてほしいと望んでいる事です。物を持っているかいないかが大事な事ではありません。全ての人々は物に束縛されています。物に自由な人は多分アシジの聖フランシスコのような色々な信仰的な体験が出来た人だけでしょう。

私達のような普通の人々は、生活め為にお金が必要ですし、子供の為にも必要ですし、手を伸ばして来る人の為にもお金は必要です。ですから富は絶対悪いものではありません。問題はそのものに、全てを賭ける利己心です。その欲を増幅させて、もっと多くの富を求めようとする人々がいるから問題です。もし富そのものが罪だとすれば私達は誰も救われません。アフリカで飢えて死んでしまう子供達が沢山います。

皆様、考えてみましょう。私達がこの福音を通して理解しなければならない事は、神様は私達に貧しさを望んでいらっしゃる訳ではないのです。“みんな、みんな富に囲まれて、豊かに生きてほしいのです”。しかし、人間のおろかさ、弱さはそれを許せないのです。だから私達に見せて下さった5000人を食べさせたイエス様の奇跡をよく理解しなければならないのです。もし私達が少しでも自分が持っている物を自然に出すことが出来れば、沢山の人が救われます。お金を儲けて下さい。それは悪い事ではありません。儲けてそれをどのように使うかが問題です。正しく使おうとして下さい。そうすれば、神様は富の祝福も必ず下さいます。何故私に神様がこの様に富を下されたのか考えて下さい。必ず御旨があります。その御旨は私の教えに従って全てを行ってほしい、お金が全てではない事をあな

たの富で他の人々に見せてほしいという事でしょう。

皆様、富は必要です。しかし正しくない方法で儲けようとするその心があれば、その人々は今日の福音にあるように不幸な者です。しかし神様が許されて富の中にいる時に、正しくその富を使おうとすれば、それは一つの大きな祝福です。お金は汚い物ではありません。しかし人間の欲によって汚い物になってしまったのです。

私達の一つの使命感はお金の価値、富の価値を取り戻すことではないかと思います。物を持っていることを恥と思わないで下さい。ある人は表面的には貧しい生活しているように見せるために、いつも同じ服を着ている人もおります。しかし、財布の中に、銀行の通帳の中に、沢山お金が入っています。(冗談ではないのですよ)ある人は必要なときに必要なだけ使います。どちらが自由でしょうか。どちらが富について正しく理解しているでしょうか。食べたい物があったら食べて下さい。それは罪ではありません。ただ私達が持っているものを分かち合おうとする心だけ忘れないで下さい。それでいいのです。

長い間、お金のある人は皆、罪びとのように考えました。なぜなら聖書に『富を持つ者が神の国に入るのはなんと難しいことであろう。金持ちが神の国に入るよりは、らくだが針の穴を通るほうがもっとやさしい。』とあるからです。(ルカ 18・24-26)何故難しいのでしょうか。物が多ければ多いほど私達はそれらの物に縛られます。知恵を持って私達がこの富を使う事が出来れば、飢えている人が、困っている人が横にいるのを知らん振り出来ません。必ず一緒にしましようという心が自然に生じます。

皆様、皆様が持っている富は自分の物だと思わないで下さい。それは神様が許されたので与えられたものです。そうしたら、いつかそれ以上必ず返さなくてはならないのです。それをきれいに使って下さい。

今日、使徒パウロがコロサイの教会への手紙の中で、霊的に深い話を沢山なさいました。最初にこのように書いてあります。『あなたがたは、キリストと共に復活されたのですから、上にあるものを求めなさい。』(コロサイ 3・1) どのような意味でしょうか。それからこのようにおっしゃっております。『貪欲は偶像礼拝にほかならない。』(コロサイ 3・5~6) イエス様がおっしゃった富の危険は、正しい心でお金を儲けるのではなくて貪欲です。貪欲はどんな意味ですか。それは他人の食べる物さえ奪いたい欲深い気持ちです。自分が100円持っているのに、あの人は何故200円持っているのかと欲張る心です。そのようにして積んだお金はお金ではありません。それは罫です。皆様正しく見ましょう。物質的な物は必要です。肉体的な物も必要です。しかし、その上に心、霊、魂を置いて下さい。そうでなかったら私達は必ず物に支配されます。

今日の福音『貧しい者は幸いである』この事は痛みを意味します。痛みを体験した者でなければ、他の人の痛みを理解することが出来ないし、痛みが解からなければ神様に頼る事もできません。痛みも一つの祝福です。その痛みを愛してください。抱きしめて下さい、逃げようとしないで下さい。そうすれば、全ての事が神様の御旨によって、自分も合わせて行こうとする知恵が与えられると思います。

ありがとうございました。